


平成28年11月 4日

北名古屋市議会議長  
沢田 哲 様

会派名 市民民進クラブ  
代表者 上野 雅美   
若しくは  
議員名

視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	上野 雅美          松田 功	
日程	平成28年10月6日 から 10月7日 まで 2日間	
月 日	視察・研修先	視察・研修概要
10・6	第78回全国都市問題会議 岡山国際ホテル	第78回全国都市問題会議 人が集いめぐるまちづくり 基調講演・報告等
10・7	第78回全国都市問題会議 岡山国際ホテル	第78回全国都市問題会議 人が集いめぐるまちづくり パネルディスカッション 等

旅費合計	交通費	宿泊費	土産代	通信費	参加費
91,520 円	45,520 円	26,000 円	円	円	20,000 円

## 視察報告書

実施期日 2016年10月 6日(木) から 2016年10月 7日(金) までの 2日間

実施場所 岡山市 岡山国際ホテル

視察等内容 第78回全国都市問題会議(岡山市)  
人が集いめぐるまちづくり ～国内外にひらかれた都市の活力創出戦略～

参加議員名 市民民進クラブ 上野 雅美 松田 功

### 研修内容

1日目 10月6日(木)

基調講演: まちの見方、見つけ方 ドイツ文学者、エッセイスト 池内 紀 氏

主報告: 人口減少社会における都市の活力創出 岡山県 岡山市長 大森 雅夫 氏

一般報告: 人を惹き付ける都市区間とその文化力 法政大学デザイン工学部教授 陣内 秀信 氏  
交流とにぎわいのまちづくり 奈良県橿原市長 森下 豊 氏  
革新的サイバニクスシステムによる社会変革・未来開拓への取り組み  
筑波大学大学院システム情報工学研究所教授/サイバニクス研究センター長  
CYBERDYNE 株式会社代表取締役社長/CEO  
内閣府 ImPACT: 革新的研究開発促進プログラム プログラムマネージャー  
山海 嘉之 氏

### 内容

基調講演: 「まちの見方、見つけ方」 ドイツ文学者 エッセイスト 池内 紀 氏

ドイツと日本はよく似ている、両国の違いは1963年～65年のアウシュビッツ裁判である。

当時の日本は、所得倍増を目指し同時期ドイツのアウシュビッツ裁判は、ナチスによるホロコーストの罪は、ドイツ人がドイツ人を逮捕起訴して裁く、それは過去を知り過去と対決する為で、その後教育等で過去を正確に知ることになる。

また、日本人とドイツ人との違いで、ドイツ人は倫理で判断するという判断基準を持つ。

福島第一原発事故発生後、メルケル首相は直ちに全原発を停止し、技術委員会、倫理委員会を立ち上げ、首相と議会は、一時的な経済の為に原発を再開は倫理的に許されないとした。

ドイツのまちの特徴は、まち自体が歴史を記憶する装置となっている。通りや建物にも歴史的イベントや重要人物などの名前がついている。建物を建て替え時にも元の外観を守る。まちの美観や統一性を保つのは、共同の意思義務倫理という考えが存在し、郡が予算権を持つ。小さなまちも合併せずにまちの名前が消えずに残る。

講師のまちを知る旅ルールは、①広報紙をもらう②バスの待合室でおばあさんとお話をし、タクシー運転手とお話をする③古い家並みをどうやって生かしているかを観察する④言葉遣いを確認する⑤スーパーに行くこと。

### 所感

ドイツと日本が似ていることは感じていたが、違いについては非常に興味深い話であった。

特に倫理観についてはまちづくりや日本のこれ方のあり方について真剣に考えなければならぬ、格差社会が広がりを見せる中において重要であると思います。

未来を創る上で過去を知り、興味深くまちを知ることが必要であると考え、10年を迎えた北名古屋市のこれからを創る上で参考にしていきたい。

一般報告：人口減少社会における都市の活力創出 岡山県 岡山市長 大森 雅夫 氏  
はじめに（紹介）

明治22年6月1日岡山市誕生 平成21年に政令市に 人口約72万人 面積約790㎢  
岡山市の課題

これまで人口増化傾向であったが将来的には減少傾向が見込まれ地域創生が課題

岡山市を中心として岡山連携中枢都市圏（仮称）を目指して取り組みを進める

岡山市の取り組み

地域活性化による魅力と活力あふれるまちづくり

特性を生かした産業の振興や広域観光の推進、回遊性向上社会実験、移住・定住の促進  
コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり

路面電車の岡山駅前広場への乗り入れ及びJR吉備線のLRT化の検討、

自転車先進都市おかやま、生活交通確保事業

歴史と文化が薫り、誇りと一体感のもてるまちづくり

岡山芸術交流2016、おかやまマラソン、岡山城と岡山後楽園の連携

安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり

充実した保育サービスの安定的確保、ワークライフバランスの促進（イクボス宣言）

すみ慣れた地域での安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり

健幸ポイントプロジェクトを進める

これからの岡山市がめざす都市像

中四国をリードし、活力と創造性あふれる「経済・都市交流」、誰もがあこがれる充実の「子育て・教育都市」、全国に誇る、傑出した安心を築く「健康都市・環境都市」を掲げ進めている

所感

人口減少が見込まれ、地域創生の取り組みを進めている中、広域連携を進める上で岡山市が中心となり進めており、観光、地域産業の活性化の努力を進めているのが伺えた。やはり交通網の整備は欠かせない施策で、岡山駅中心に乗り入れなどの整備、自転車共同利用の「ももちゃり」などを進めている。岡山県と岡山市が共同でマラソン大会を開催、あわせて県・市が連携し各イベントの人数を増やしている。健幸ポイントプロジェクトやイクボス宣言など健康や子育てにも力を注いでいることが受け取れました。改めて県と市が一体となって行うことは地域活性化させる上で非常に重要なことと考えます。北名古屋市においても進めていければと思います。

一般報告：「人を惹き付ける都市区間とその文化力」 法政大学デザイン工学部教授 陣内 秀信 氏

高度経済成長期は都市を拡大し発展させることを進めたが1970年代発想の転換が生まれヨーロッパ、イタリアから拡大方向ではない考えが出てきた。

ポリョーニャでは歴史的な中心地を再生、コンパクトシティのはしりとなる。

ヴェネツィアは近代化を進め独自の特徴を生かし一周遅れのトップランナーとなった

日本では1970年代に文化財保護法が改正、文化や伝統を見直す動き。

日本の都市は、歴史、地形、風景の面で多様性があり面白さがある中、重要なのは、古い建物を活用することである。日本らしい都市空間は、和と洋との組み合わせであり、住宅地と盛り場といった静と動との共存であり、表と裏（奥）といったものである。

ヨーロッパの近代化を先に進めた国・地域から、歴史的なものを大切にする動きが起こり、広まった。南イタリアではそれを生かす取り組みが行われており、スラム化した古いまちなみが、個性豊かで建物も一軒一軒違うことが、逆に人気を呼んでいる。

水辺の発見という動きが世界で起こる。日本でも、「ミズベリング」という活動が全国で広まっている。屋外の空間の活用は、イタリアでは屋外コンサートなどが行われている。坂のある街は発展しなかったが1980年代から坂やでこぼこ地形への着目も進む。

現在、東京ではマイナーな盛り場が人気。大資本や行政が入らず、手づくりの個々の商店が頑張るかたちで地元の人でにぎわう。

1980年代、文化的景観から田園や農村が評価されるようになり都市と農村のつながりをもう一度取り戻そうという取り組みも始まる。

自然資産・歴史文化資産・食文化のトライアングルが重要であり地元の眠っている資源を掘り起こせば他にもリピーターが増える。

#### 所感

日本と世界のまちづくりの講義で、中心市街地の歴史、再生方法などヨーロッパのまちの歴史は興味深いものであった。多様性のある日本の都市の成り立ちについても触れ、まちを見直し変化をさせ進んでいくことが必要であると思う。水辺空間や田園風景を生かすことが必要であり今後のまちづくりにおいて歴史や自然をみて将来の財産となる資源を見つけることが重要であると考えます。

一般報告：「交流とにぎわいのまちづくり」 奈良県橿原市長 森下 豊 氏

はじめに（市紹介）

昭和31年2月11日橿原市誕生、人口約12万4千人 「日本」という国号を初めて国外に発信した場所  
奈良モデルの推進

県と市町村とがそれぞれ「まちづくりに関する連携協定」を締結し、相互に連携して事業を進める枠組み  
大和八木駅周辺のまちづくり

駅の南側の市有地に複合施設の建設に着手し新たなにぎわいの拠点になることが期待される  
医大周辺の地区のまちづくり

奈良県立医大「医学を基礎とするまちづくり（MTB）」の構想ベースに産業振興や雇用の創出を図る  
橿原神宮前駅周辺のまちづくり

古墳群の整備、健康づくりの拠点施設と農産物販売集客施設の開館、観光拠点の発展を願う

#### 所感

県と市との連携がたやすいものではない中、県と市が連携する「奈良モデル」の取り組みは非常に興味深く参考になった。また、駅周辺のまちづくりは市有地に庁舎とホテルの複合施設を建設中とのことで今後の運用動向等に注目したい。医療にての雇用創出や歴史、健康、産業施設の整備を進めることも参考にしていきたい。

一般報告：革新的サイバニックシステムによる社会変革・未来開拓への取り組み

筑波大学大学院システム情報工学研究所教授／サイバニクス研究センター長

CYBERDYNE 株式会社代表取締役社長／CEO

内閣府 ImPACT：革新的研究開発促進プログラム プログラムマネージャー

山海 嘉之 氏

新産業、新市場の創出に取り組んでいる。

ロボットスーツ「HAL」開発、それは脳卒中や脊髄損傷で歩くこと難しい方々に対して、身体の動きをアシストする治療のためのスーツである。

このスーツにより患者のメンタル面などの変化が生まれているため、臨床心理士と研究をさらに重ねている。行政の様々な規制を受けずに最先端のテクノロジーを試すためつくばにサイバニックシティを建設予定。現在イノベーションのスパイラルを進めるために、若手の育成や地域で活躍する人材の育成を行い、重介護0への挑戦をし続ける。

## 所感

医療介護0を目指す山海氏が進める新市場新産業の取り組みにおいて壮大な流れを感じた。歩行困難の方等に開発したロボットスーツ HAL を使うことで動くことが可能になり、患者さんの新たな変化などが見られた。この事業においてまだまだこれからの面も多いが数多い期待も感じた。しかしそれら事業は、国や自治体との連携を深めていかなければ進まないことも多く、中心となる專業プロデューサーが必要になる中、それらを理解し私たち社会全体が協力していくことが重要だと考える。

2日目 10月7日(金)

## パネルディスカッション

テーマ： 人が集いめぐるまちづくり —国内外にひらかれた都市の活力創出戦略—

コーディネーター： 東京大学大学院工学系研究科教授 西村 幸夫 氏

パネリスト： 中央大学法学部教授 工藤 裕子 氏

一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事 木下 斉 氏

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ代表取締役 木村 正明 氏

茨城県ひたちなか市長 本間 源基 氏

三重県鈴鹿市長 末松 則子 氏

末松市長、鈴鹿市におけるさまざまな分野の活力創造政策について

鈴鹿市は、鈴鹿サーキットという地域資源を生かしたモータースポーツのまちづくりを進める。「子育て応援館」を新たに開設。鈴鹿市まちづくり基本条例に基づき「鈴鹿市協働推進指針」策定。新たな産業の創出と雇用拡大の取り組みも進める。

本間市長、ひたちなか市における職住近接のまちづくりと交流の促進による活力創出の取り組みについて

ひたちなか市は、国営ひたち海浜公園は外国人観光客も多数訪れる。ひたちなか海浜鉄道湊線は、市が51%出資する第三セクターとして運行。中心市街地では民間主導の活性化が進められる。

工藤氏、アート・イベントがもたらす地域への効果と課題について

アート・イベントは、経済効果や雇用創出などのメリットがあるが、交通アクセス確保、セキュリティ、運営など、さまざまなコストがかかり、それが地元自治体・住民の負担となる。

木村氏、Jリーグクラブであるファジアーノ岡山の地域に密着した活動について

プロスポーツには2つの側面があり、エンターテインメント産業とベンチャー企業としての面。プロスポーツは応援してもらう為にも、まちに出て人々の意見を聞き話をするこもしなければいけない。

平均入場者数1万人という目標を掲げる。

木下氏、都市間競争時代に求められる「稼ぐ都市づくり」について

都市の中心部商業地区活性化のため共同で出資する事業を手掛ける。民間と公共と一緒に活動し、公共施設を活用し、補助金ではなく銀行からの融資を受け、民間事業を展開して稼ぎ、地域の活性化に必要な機能を作る。

所感

各コメントータの報告が立場業種の違いがあるので、面白く意見が拝聴でき、民間と自治体のまちづくりや運営が、わかりやすく説明いただけたように思う。特に稼ぐ都市づくりにおいては、興味深く民間と公共のこれからを理解する上で重要なことと思います。またプロスポーツチームがいるだけで人が来るわけではなく、地道な努力が必要であることは自治体においても同様である。各コメントータの意見を踏まえ、行政、住民、NPO、企業などの協力を進めまちづくりに取り組んでいきたい。